

1 次の問に答えよ.

- (1) $\triangle ABC$ において, $AB = 1$, $AC = 3$, $\angle A = \theta$ とする. このとき, $\triangle ABC$ の外接円の半径 R を θ を用いて表せ.
- (2) a, b を $a^2 + b^2 = 1$ を満たす実数とすると, $a + 2b$ の最大値を求めよ.
- (3) 2次方程式 $x^2 + ax + 24 - a = 0$ が異なる2つの整数解をもつとする. 実数 a をすべて求めよ.

(東京都市大学 2015)

2 関数 $f(x) = \frac{e^{2x}}{9x^2 + 2}$ について, 次の問に答えよ. ただし, 必要ならば $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$ を用いてよい.

- (1) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ を求めよ.
- (2) 関数 $y = f(x)$ の増減, 極値を調べてそのグラフをかけ.
- (3) k を定数とすると, x についての方程式 $e^{2x} = k(9x^2 + 2)$ の解の個数を求めよ.

(東京都市大学 2014)

3 n を自然数とする。このとき、次の問に答えよ。

(1) 任意の n に対し、不等式 $n! \geq 2^{n-1}$ が成り立つことを数学的帰納法により証明せよ。

(2) $n \geq 4$ のとき、不等式

$$1.7 < \sum_{k=1}^n \frac{1}{k!} < 2$$

が成り立つことを示せ。

(東京都市大学 2014)

2015年工(電気電子工, 建築) 第1問

 数理
石井K

1 次の問に答えよ。

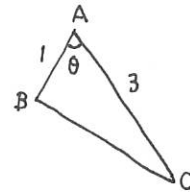
- (1) $\triangle ABC$ において, $AB = 1$, $AC = 3$, $\angle A = \theta$ とする. このとき, $\triangle ABC$ の外接円の半径 R を θ を用いて表せ.
- (2) a, b を $a^2 + b^2 = 1$ を満たす実数とするとき, $a + 2b$ の最大値を求めよ.
- (3) 2次方程式 $x^2 + ax + 24 - a = 0$ が異なる2つの整数解をもつとする. 実数 a をすべて求めよ.

(1) 余弦定理より.

$$BC^2 = 1^2 + 3^2 - 2 \cdot 1 \cdot 3 \cdot \cos \theta \quad \therefore BC = \sqrt{10 - 6 \cos \theta}$$

正弦定理より.

$$\frac{BC}{\sin \theta} = 2R \quad \therefore R = \frac{\sqrt{10 - 6 \cos \theta}}{2 \sin \theta} //$$

(2) $a = \cos \theta$, $b = \sin \theta$ と表せるので

$$a + 2b = \cos \theta + 2 \sin \theta$$

$$= \sqrt{5} \left(\sin \theta \cdot \frac{2}{\sqrt{5}} + \cos \theta \cdot \frac{1}{\sqrt{5}} \right)$$

$$= \sqrt{5} \sin(\theta + \alpha) \quad \left(\text{ただし, } \alpha \text{ は } \cos \alpha = \frac{2}{\sqrt{5}}, \sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{5}} \text{ となる実数} \right)$$

 $\therefore a + 2b$ の最大値は $\sqrt{5}$ //

(3) $x^2 + ax - a - 1 = -25$

$$\therefore (x-1)(x+1+a) = -25 \quad \dots (*)$$

2つの整数解を α, β とすると, 解と係数の関係より, $\alpha + \beta = -a$ となり, a も整数である(*)において, $x-1$, $x+1+a$ はともに整数であるから.

$$\begin{cases} x-1 = 25 \\ x+1+a = -1 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} x-1 = 5 \\ x+1+a = -5 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} x-1 = 1 \\ x+1+a = -25 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} x-1 = -5 \\ x+1+a = 5 \end{cases}$$

$$\text{または} \quad \begin{cases} x-1 = -25 \\ x+1+a = 1 \end{cases}$$

2次方程式の判別式を D とおくと, $D = a^2 - 4(24 - a) > 0 \quad \therefore a < -12, 8 < a$ これをみたすと, $a = -28, 24 //$

2014年工(機シ・医工・化学)・知識工第4問

 数理
石井K

4 関数 $f(x) = \frac{e^{2x}}{9x^2 + 2}$ について、次の間に答えよ。ただし、必要ならば $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$ を用いてよい。

- (1) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ を求めよ。
 (2) 関数 $y = f(x)$ の増減、極値を調べてそのグラフをかけ。
 (3) k を定数とするとき、 x についての方程式 $e^{2x} = k(9x^2 + 2)$ の解の個数を求めよ。

$$\begin{aligned} (1) f'(x) &= \frac{2e^{2x}(9x^2+2) - e^{2x} \cdot 18x}{(9x^2+2)^2} \\ &= \frac{2(3x-1)(3x-2)e^{2x}}{(9x^2+2)^2} \quad // \end{aligned}$$

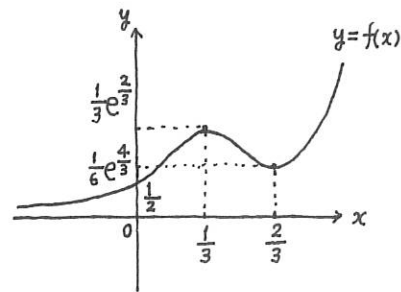
(2) (1) より、 $f'(x) = 0$ となるのは、 $x = \frac{1}{3}, \frac{2}{3}$ のとき

x	...	$\frac{1}{3}$...	$\frac{2}{3}$...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$		↗		↘	
$f(x)$				↘	
$f(x)$					↗

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = 0, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty,$$

$$f\left(\frac{1}{3}\right) = \frac{1}{3}e^{\frac{2}{3}}, \quad f\left(\frac{2}{3}\right) = \frac{1}{6}e^{\frac{4}{3}}$$

∴ 右のグラフになる。



(3) $\frac{e^{2x}}{9x^2+2} = k$ ∴ (2) のグラフと $y = k$ の交点の個数が 解の個数に等しいので

$$\begin{cases} 0 \text{ 個} & (k \leq 0 \text{ のとき}) \\ 1 \text{ 個} & (0 < k < \frac{1}{6}e^{\frac{4}{3}}, \frac{1}{3}e^{\frac{2}{3}} < k \text{ のとき}) \\ 2 \text{ 個} & (k = \frac{1}{6}e^{\frac{4}{3}}, \frac{1}{3}e^{\frac{2}{3}} \text{ のとき}) \\ 3 \text{ 個} & (\frac{1}{6}e^{\frac{4}{3}} < k < \frac{1}{3}e^{\frac{2}{3}} \text{ のとき}) \quad \text{---} // \end{cases}$$

2014年工（電気電子工，建築）第3問


3 n を自然数とする。このとき、次の間に答えよ。

- (1) 任意の n に対し、不等式 $n! \geq 2^{n-1}$ が成り立つことを数学的帰納法により証明せよ。
 (2) $n \geq 4$ のとき、不等式

$$1.7 < \sum_{k=1}^n \frac{1}{k!} < 2$$

が成り立つことを示せ。

(1) 数学的帰納法により証明する

(i) $n=1$ のとき。

$$1! = 2^0 \text{ より、成り立つ}$$

(ii) $n=k$ のとき、成り立つと仮定する

$$k! \geq 2^{k-1} \dots \textcircled{1}$$

\textcircled{1} の両辺に $(k+1)$ をかけて、

$$(k+1)! \geq (k+1) \cdot 2^{k-1} \dots \textcircled{2}$$

 k は自然数であるから、 $k+1 \geq 2$

$$\begin{aligned} \therefore (k+1) \cdot 2^{k-1} &\geq 2 \cdot 2^{k-1} \\ &= 2^{(k+1)-1} \dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

$$\textcircled{2}, \textcircled{3} \text{ より、} (k+1)! \geq 2^{(k+1)-1}$$

 $\therefore n = k+1$ のとき、成り立つ(i), (ii) より、任意の自然数 n に対して、

$$n! \geq 2^{n-1} \text{ が成り立つ} \quad \square$$

$$(2) \sum_{k=1}^n \frac{1}{k!} \geq 1 + \frac{1}{2!} + \frac{1}{3!} + \frac{1}{4!} \quad (\because n \geq 4 \text{ より})$$

$$= \frac{41}{24} (= 1.70833\dots)$$

$$> 1.7$$

$$(1) \text{ より、} \sum_{k=1}^n \frac{1}{k!} < \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{2^{k-1}} \quad \text{無限等比級数の和、初項1, 公比} \frac{1}{2}$$

$$= \frac{1}{1 - \frac{1}{2}}$$

$$= 2$$

$$\text{以上より、} 1.7 < \sum_{k=1}^n \frac{1}{k!} < 2 \quad (n \geq 4) \text{ が成り立つ} \quad \square$$